

Title	サルモン・レイナック氏の訃
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.1 (1933. 4) ,p.142- 142
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330400-0142">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330400-0142</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## サルモン・レイナック氏の計

巴里郊外サン・ジェルマンの佛國考古學博物館の館長として宗教史・美術史・考古學・金石學等あらゆる方面にその百科全書的博識をもつて聞えてゐたサルモン・レイナック氏は一九三二年十一月四日をもつて長逝した、氏の最も卓越した貢獻は、ギリシア・ローマ多神教の研究であり、ラング・スミス・フレイザーの比較研究法を利用し、トイテミズムのゴールに於ける遺存を解明したり、神話と祭儀とを結びつけた。また考古學的遺物の便利な目錄を數多編纂し、古代史一般の研究者に多大の利益を齎してをる。晩年に氏の名聲を少し損じたのは、例の「グロゼル」問題に關係したことであり、此地から出たといふ偽作の新石器時代のアルファベットなるものを信ずるグロゼル派の有力な支持者であり、最後まで斷じてその所信を曲げず、例の西洋學者の一徹振りを遺憾なく示してゐた。